

## 教員の質を高め、生徒一人あたりの教員数の拡充を求める意見書

教育の格差是正、学習習慣の定着や基礎学力の向上等を図るためには、とくに小中学校において教員の質を高め、生徒一人あたりの教員数を拡充し、個々に応じたきめ細やかな指導を行うことが重要だと考える。地方自治体独自の創意工夫によって、全国的に少人数学級編制が実施されるに至っているものの、日本の平均学級規模は初等教育段階で 25.6 人、前期中等教育段階で 30.0 人となっており、諸外国の平均学級規模に比べると十分とは言えない状況にある。

よって町田市議会は、すべての児童・生徒に行き届いた教育を実現するため、子どもの数が減る以上に教員の数を減らすことなどを定めた規定を削除することなどによって教員数を拡充し、OECD加盟国平均並みの学級規模（一学級あたり初等教育段階で 21.5 人、前期中等教育段階で 24.1 人）とするよう強く要請するものである。

以上、地方自治法第 99 条の規定に基づき、意見書を提出する。